

## 『都市型がん医療連携を担う人材の実践的教育』

東京女子医科大学・杏林大学・帝京大学・駒澤大学



ニュースレター 平成28年度10号  
2016年10月号

### がんプロ補助期間終了にあたって



東京女子医科大学  
理事長・学長

吉岡 俊正

文部科学省補助事業「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」に採択され、本学、杏林大学、帝京大学及び駒澤大学の4大学が連携し推進している「都市型がん医療連携を担う人材の実践的教育」の5年間の事業期間が終了となります。連携大学の努力のもと、文部科学省、がんに関する関係者及びがん患者さんやそのご家族等様々な方からのご支援を受け、がん患者さん・そのご家族の視点に立ちながら、がん医療に関係する医師、看護師、医学物理士などの養成を行い、質の高いがん医療人を養成したほか、がん医療に不可欠なチーム医療の促進、子どもに対するがん教育、国民の皆様に対するがんの最新情報や予防情報の提供及びがん検診の普及率向上の取り組み、地域医療施設との連携等様々な取り組みを行ってまいりました。補助金を受けた事業期間終了後も、都市型がん医療を担う人材養成の取り組みは各大学で継続して行なってまいります。今後とも皆様のご支援のほどよろしくお願い致します。

### がんプロを通じて得られたもの

4大学のがんプロ大学院生は、各大学の各コースが定める都市型がん医療連携を担う人材の実践的教育プログラムに則り、様々な研鑽を積んだことと思います。その中でも私が特に注目したのは、がんプロセミナーとして何度も開催された4大学合同カンファレンスです。この4大学合同カンファレンスでは、大学院生自身が経験して対応が難しかった症例をプレゼンテーションし、教官にアドバイスをもらいながら皆で検討する形式がとられました。また、毎回のカンファレンスでは、次の3つのコンセプトが徹底して遵守されました。①原則として大学院生の自主運営の形式をとる。②したがって、司会、演者、パネリストなどは大学院生から選抜する。③指導教官や外部参加者は聴衆として進行具合を温かい目で見守る。私は4大学合同カンファレンスにおける大学院生の活躍ぶりをつぶさに見て参りましたが、毎回個々の役割を通じて大学院生が確実に成長している様子をはっきりと実感することができました。そして、やはり教育の原点とは、生徒が今後自学自習できるための方法論を示すことに他ならないと再認識いたしました。これからも、がんプロの活動を通じて得られた「この気づき」を大切にしていきたいと思っております。



帝京大学医学部  
内科学講座（腫瘍内科）  
病院教授

関 順彦



# 平成 28 年度 第2回4大学合同カンファレンス

## テーマ：高齢者のがん診療の現状と課題

杏林大学 医学研究科 腫瘍内科学 教授 古瀬 純司

平成 28 年 12 月 3 日、杏林大学井の頭キャンパスにて今年度 2 回目の 4 大学合同カンファレンスが開催された。本がんプロのテーマである「都市型がん医療連携」において、今回は「高齢者のがん診療の現状と課題」を取り上げた。第一部基調講演として杏林大学腫瘍内科長島文夫准教授に、米国における高齢者のがん診療や臨床研究、わが国における高齢がん患者の機能評価や臨床試験、厚労省の対応、など幅広い講演をいただいた。第二部では、4 大学から高齢者がん診療に関する 5 演題が発表され、討論された。東京女子医科大学からはご主人の介護のため通院で放射線治療を行い、完遂できた患者さんが報告された。帝京大学からはがん治療終了後の療養場所に関する発表と化学療法を実施した高齢者 2 例の報告があった。杏林大学からは初期認知症を伴う高齢者に対し、診療科カンファレンスと多業種カンファレンスを踏まえて、治療を選択した事例が報告された。駒澤大学からは放射線治療における技師さんの役割、特に人との触れ合いの重要性について詳細な報告があった。最後に、外部コメンテーターとしてご出席いただいた都立駒込病院名誉院長佐々木常雄先生と聖路加国際病院腫瘍内科部長山内照夫先生から各演題に関する丁寧なコメントと総評をいただいた。高齢化社会はわが国全体の問題であるが、高齢者の独居や老々介護など都市部ならではの多くの課題がある。5 つの報告により、改めてこれらの課題の重要性が確認され、共有できたものと思われる。今回が本がんプロ最後の合同カンファレンスであり、55 名という多数の参加をいただいた。合同カンファレンスは回を重ねるごとに議論も深まっている印象がある。大学内のカンファレンスに比べ、複数の違った大学の視点から意見を交換する 4 大学合同カンファレンスならではの意義は大きいものと改めて感じたところであり、是非今後につなげていくものである。



# 4大学連携合同成果報告会・4大学連携合同市民シンポジウム

東京女子医科大学 放射線腫瘍学講座 教授 唐澤 久美子

5年間の事業の集大成である4大学連携合同成果報告会と市民シンポジウムを土曜日の午前、午後に分けて開催しました。午前中の成果報告会では、主管校である女子医大吉岡学長の挨拶に続いて、看護分野、放射線治療分野、腫瘍内科分野、緩和医療分野及びがん教育、その他の取り組みと分野横断的取り組みについて各領域を代表する教員より、成果が報告されました。大学院コースは4大学で計11コース、インテンシブコースは13コースが開講され、多くの院生、医療従事者の養成を行うことができました。様々な合同シンポジウムや勉強会、子供に対するがん教育などの成果も報告されました。最後に外部コメンテーターの全国がんプロ協議会顧問の今井浩三先生、協議会会長の松浦成昭先生、文部科学省の赤石亘様よりコメントをいただきましたが、我々の活動をご評価いただくコメントを頂戴することができました。

午後の4大学連携合同市民シンポジウムは、「都市部におけるがん医療の課題と方策について」をテーマとしました。3大学の附属病院で実施したアンケートの解析結果を「都市型がん医療のニーズを探るーがん患者のサバイバー調査から見えてきたものー」として紹介しましたが、同じ東京でも地域によって療養体制に差があることが浮き彫りにされました。院生による合同カンファレンスでの優秀発表者2人の研究成果発表に続いて、地域医療施設の先生をお招きしてのパネルディスカッションを行いました。コンフォガーデンクリニック院長木下朋雄先生(新宿区)、佐藤クリニック院長佐藤恵先生(板橋区)、がん研究会有明病院看護部花出正美先生とがんプロコーディネーターを務めた3教員が討議し、東京の多くの医療資源を有機的に活用するには、大学病院やがん専門病院、中核病院、地域医療施設それぞれの主治医を持つことの有用性が確認されました。



# 子どもたちを対象とした「がん教育」授業

駒澤大学大学院 医療健康科学研究科 教授 奥山 康男

駒澤大学では、がんプロ事業の一環として小学校高学年から中学生や高校生を対象とした「がん教育」の出向授業を2015年度より実施しています。その主意は「早い時期からがん教育に触れ」、「将来望ましい生活習慣を身につけ」、「がん検診に対する意識を高め」、「身近な大切な人に検診を積極的に促してもらう」ことが本プロジェクトのネライです。2015年12月東京都杉並区立三谷小学校において、実際に授業する内容をPTAと教員に聴講して頂き「がん教育」授業に対する座談会を皮切りに、同年12月20日に四大学連携がんプロ市民公開講座で子ども向けの「がんってどんな病気か知っている?」を催しました。また、2016年12月7日埼玉県立大宮南高校では各学年の代表となる保健委員約50名と校長・副校長・教員等が参加した「がんの予防とがん検診の大切さ」を講義しました。本講義は、全学年を対象とした高校生向け「がん教育」授業の適否を検討して頂くもので、大変良い評価を得ましたので今後の授業内容と時間を小学校高学年用 (Max30分)、中学生用 (Max45分)、高校生用 (Max60分) に区分した形式で行うことがベストであることが分かりました。さらに、2017年1月14日東京都杉並区立高井戸中学校では土曜授業として1学年から3学年までの全校生徒に「学年毎に難易度を上げていく方法」にて実施し、終了後の学生アンケートでは各学年とも「がんは防ぐことや自分たちでコントロール出来るもの」と、授業内容を大変良く理解している声を頂きました。



## 土曜授業等の様子

1月14日学校公開日に駒澤大学大学院 医療健康科学研究科の奥山康男教授をお迎えして、①「がん」への正しい知識をもち、将来望ましい生活習慣を身に付ける。②検診に対する意識を若年層でも高めて、検診率を上げる。③正しい知識を得て、大切な人へ積極的に検診を勧めることを目的とした「がん教育教室」を実施しました。学校公開日でしたので、保護者も参観下さいました。



▲埼玉県立大宮南高校での授業風景スナップ (2016年12月7日)

▲東京都杉並区立高井戸中学校の学校日より (2017年1月16日)

## 登録・問い合わせ先

 <p><b>東京女子医科大学</b></p> <p>がんプロ事務局 TEL 03-3357-4889 MAIL top-g4.bm@twmu.ac.jp</p>	 <p><b>帝京大学</b></p> <p>事務部 教務課 がんプロ担当 TEL 03-3964-1211(代表)(内線42122) MAIL ganpro@med.teikyo-u.ac.jp</p>
 <p><b>杏林大学</b></p> <p>がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン事務局 TEL 0422-47-5512(内線3211) MAIL ganpro@ks.kyorin-u.ac.jp</p>	 <p><b>駒澤大学</b></p> <p>教務部研究推進課研究推進係 TEL 03-3418-9125 MAIL ken-suishin@komazawa-u.ac.jp</p>

本事業の最新情報はホームページに掲載、「TOP-G4」で検索